⑩ 日銀事務所長の 旭川・道北コラム

春の訪れ

この半月ほどの間に雪解けが一気に進み、周囲の景色の変化が早くて驚いています。雪の中では手狭な印象があった歩道も、雪が無くなると道幅が何倍にもなって、とても広いことに気づきました。昨年の降雪前までは道幅の広さに気も留めずに通行していましたが、一冬を過ごしての気づきとして、雪置き場まで運搬できないことも想定して雪を道の両脇に積み重ねるスペースを確保するための雪国の都市計画の知恵の一つなのだと理解しました。

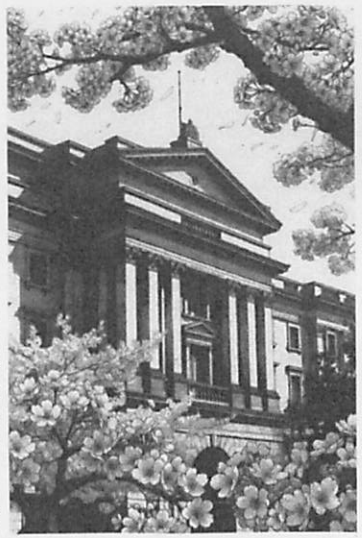
宮前公園やJR旭川駅周辺の忠別川沿いのサイクリングロードも、つい先月まで歩くスキーを楽しんだ一面の雪風景が、あっという間に変化している姿に驚きました。夏の間に何度も自転車で走っていた際には意識していませんでしたが、雪景色との見え方と打って変わって、こんなにも広々と整備された道のある風景だったのかと感心しました。

雪解けの後に現れた地面から植物が一斉に芽吹く姿も変化に富んで魅力的です。公園や道路脇の緑地帯などで目にする、フキノトウやつくし、クロッカス、水仙、福寿草など、新しい芽が吹き花が咲く様子を日々目にしながら道を歩くのは、寒い冬から解放され春を迎えるこの時期ならではの楽しみだと思います。暖かい日光の下で植物の生き生きとした生命力を目にすると、気持ちも明るく前向きになります。

特に、フキノトウは、群生することが多いせいかよく目立ち、本州のものと比べてだいぶ大きくてインパクトがあります。六花亭の包装紙は、私にとって昔からフキノトウの印象が強いものだったのですが、当地の野性味あふれるフキノトウの実物をみると存在感の強さを実感できて、北海道を代表する植物の一つなのだと得心しました。

また、私の実家では庭の花壇で福寿草を手間暇かけて育てていたことがありましたが、市内の道路脇の緑地帯で咲いている福寿草をいくつか見つけて、そのたくましい姿に感心しました（ひょっとしたら、近隣の方が手間暇かけて育てているのかもしれません）。庭の花壇から消失してしまった実家に、福寿草の写真を送って見せたらとても喜ばれました。

4月初旬に支店長会議出席のために東京に出張しました。東京の桜開花宣言から少し時間が経ち、ソメイヨシノは満開の時期を過ぎていましたが、それでも、都内各所でたくさんの桜を目にすることができました。上野公園では、インバウンドを含めた花見客が大勢いて人の多さに圧倒されましたが、春ウララの穏やかな天気の中で花吹雪を楽しむことができました。桜は気分をリフレッシュさせてくれる効果絶大ですね。世界各国の人々にも共感して喜んでもらえる宝です。



※イラストはいずれもイメージ

東京の日本橋にある日本銀行本店を囲む通りの一つに「江戸桜通り」という通りがあり、この通りの桜並木も見応えあるスポットです。この通りを挟んで、本店の向かいには貨幣博物館というお金の博物館があります。ここでは、和同開珎などの古代のお金から始まり、江戸時代の大判・小判、寛永通宝、近代以降の日本銀行券（お札）など、日本のお金の歴史について実物を見ながら見学できる展示となっています。また、大判の重さやお札の偽造防止技術の確認などができる体験型展示もあります。東京駅・日本橋口から徒歩8分とアクセスしやすく、しかも無料で入館できるおススメの施設です。東京を訪れる際には、是非お立ち寄りください。

これから旭川でも桜の季節になりますね。私自身は、同じ年に東京と旭川のそれぞれの桜を楽しむことができてありがたい限りです。旭川の桜、とても楽しみです。

（毎月第四週に掲載します）

【佐藤弘康（さとう・ひろやす）】 1970年、宮城県出身。東北大学法学部卒。システム情報局企画役、決済機構局企画役、業務局企画役、発券局戸田発券課長を経て、2025年、旭川事務所長に就任。